




太陽の陽子！ 

やまもと

ようこ

山本陽子

活動ニュース

VOL.101 2023年1月15日号

〈連絡先〉日本共産党山科区生活相談所 山科区西野大手先 8-8 ☎ 595-8342



いのち・くらし・平和が大事！

日本共産党京都市議会議員

「高さ規制の緩和で、人口減少克服、まちが発展するという根拠はありません」！

【12月22日まちづくり委員会】

山科では外環沿いで高さ規制を無制限とする「都市計画の見直し」が提案されています。先日行われた市民意見募集の結果報告について質疑したところ、市からは驚くような答弁が。

（京都市の報告）

市民意見募集の結果：意見書数 869 通
意見数 2445 件 ※概ね 7 割の方が賛同

★東部方面の外環状線沿道に関することへの意見数は 388 件（全体の意見に次いで多い）

==== 質 疑 ====

（山本陽子）都市計画の見直し案については回覧板や市民新聞等で周知された。しかし山科の外環沿いを 20 軒以上を回ったが、知っておられたのは 1 軒のみだった。全市 5 か所で開かれた説明会の参加人数は？

→（担当部長）5 か所で合計 113 人、山科の会場は 27 人が参加。

（山本）周知が不十分。これで市民に説明した、意見を聞きました、と言うのは乱暴だ。住民説明会では、区役所の職員は参加しておらず、「高層ビルが山科の良さを壊してしまうのではないか」という意見について、山科の歴史や風土について知らない職員ではダメだ、と再度の説明会の開催も求められたが、検討されたか？

→（担当部長）山科区の都市計画の変遷を職員が区役所から聞き取って勉強し臨んだ。子どもの医療費や財政負担のことなどの（関係のない）意見が出された。京都市としてめざしているまちの将来像について説明を尽くし

たので、再度の説明会は必要ないと考える。（山本）「概ね 7 割が賛同」とあるが、エリア別でも意見数が異なる。エリアごとに賛否の結果を示すべきだ。

→（担当部長）パブコメは多数決をとるものではない。エリアごとの賛否は出せない。

（山本）多数決ではないというなら市長が真っ先に賛成 7 割と言われたのは問題。賛成意見でなく、反対意見にこそ耳を傾けて検討するのが、市民意見募集の意義ではないか？

続いて都市計画の見直しの立法事実の根拠について問う。そもそも高さ規制の緩和が「人口減少克服」や「まちの発展」に結び付く、とした根拠が説明されていない。根拠は？

→（担当部長）京都市としてめざすまちの仕掛けを用意したもの。根拠はない。

（山本）根拠がないと認めた。弁護士会からも今回の見直しについて反対の意見が出ている。「これまでも 2015 年には人口減少に歯止めをかけるためと、都市計画の変更で規制緩和を行ってきた。しかし、そのことによって人口増加は見られていない」と指摘されている。これまで規制緩和の総括はあったか？

→（担当部長）少子化が避けられないなかでエココンパクトな都市構造をめざし、エリアを精査し構築した。限定的で小規模だったので十分ではなかった。今回ダイナミックな見直しを行い、人口減少に対応していく。

（山本）意見書でも指摘されているように「規制を緩めれ

ば建物が建つ、建物さえ建てば人口が増えるだろう」というのは安易な考え方だ。本当に若い世代に来てほしければ、若い世代のニーズを検討すべき。若者が住める住宅価格など誘導すべき条件は調査したか？

→（担当部長）私たちは都市計画として考えている。たくさんの施策が連携して取り組む。

（山本）ニーズを調査すべき。高層ビルを建てて賑わい施設を増やしても、住民の生活は豊かにならない。収入が上がらなければ需要と供給の関係は成り立たない。山科では大丸が撤退した。親の収入が下がり続け、子どもの貧困が叫ばれている子育て世代の生活状況に添った検討がなければ、あまりにも空虚な提案だ。

感想；高層ビルでまちが発展するという考えは根拠のない空虚なものでした。今は、高度経済成長期ではありません。市民の暮らしが大変厳しいところに光を当てるべきです。現実を直視した具体的施策、全員制の中学校給食を！子どもの医療費の無料化を！ 敬老乗車証の負担増撤回を！ 市民のふところ温めれば、人は集まる。経済の好循環で、まちの発展につながります。



毘沙門前初寅宣伝で、新年のご挨拶 & 革新山科の会の大軍拡 NO 宣伝

2023 年を「戦前」にはさせない！
軍事対軍事のエスカレートでは、戦争する国へまっくら。世界の主流は、平和の外交こそであり！と多くの皆さんに知っていただきたいです。全国統一地方選挙に向けても、平和を守る決意を新たに訴えました。



ママチャリ子育て日記

必死のお年玉攻防

ありがたいことに、この正月も子どもたちは、祖父母や叔父叔母からお年玉をもらうことができました。しかし息子君は「友達は、お父さんお母さんからもお年玉もらった」って言うてるけど、うちも頂戴」と攻めに出てきました。母「計六人からももらったんだから、もう十分とちがう？」と応じましたが引き下がらず。

母「ほな千円」と言ったものの、息子「えー！」。母「ほな二千円」。息子「あと一声、二五〇〇円、いや三千円！」。いつのまにか、二五〇〇円か三千円かの攻防にもちこまれ、息子「じゃんけんしよ、俺が負けたら二五〇〇円でいいわ。俺が勝ったら三千円な」しつこく食い下がり、じゃんけんを持ち込まれてしまいました。ここまで来たら、もう後戻りはできません。「じゃんけんぽん！」で案の定、息子の執念に押されて、じゃんけんにかけてしまいました。

さっそく、息子はお姉ちゃんに報告。「おれ、三千円ゲットしたで」
いつの時代も子どもたちはお年玉には真剣勝負です。私もその執念は見習って（？）頑張ります！

